

# シーケンス制御訓練内容の考察

—自動制御のME化に訓練内容をどう対応させるか—

研究担当者

開発研究第一部  
電気化学系研究室

西見安則

## 序 文

当研究センターの開発研究部における主要な業務のひとつに、職業訓練用教材の研究・開発があり、さまざまな角度から取り組んでいるところである。本研究は、さまざまな教材研究の中で、特に教材内容の問題を取り扱っているが、技術変革下における教材内容はいかにあるべきかという、一般カリキュラム論で言えば、スコープ面からアプローチしたものである。

教材内容の編成には、従来職務分析にその根拠を求めていた。本報告においても、このことの重要性を認めたくえて、さらに加えて内容そのものの持つ本質や構造を重視し、そこに編成の根拠を求めようと試みている。

この研究を行うにあたって、当研究センター内に「シーケンス制御教材研究会・ワーキンググループ」を設けた。研究会には、下記の諸先生に専門委員をお願いし、学識経験者の立場から数々のご指導をいただき、報告書の作成、とりまとめにご協力を賜わった。

ここに厚く謝意を表する次第である。

研 野 和 人（株式会社小松製作所・電気研究所 所長）

高 橋 忍（沖電気工業株式会社・八王子工場 課長）

なお、当研究センターにおいて本プロジェクトのメンバーとして研究に参画したのは、以下の諸君である。

吉 田 敦（開発研究第一部 部長）

武 藤 栄（開発研究第一部 電気化学系研究室室長）

高 橋 辰 栄（開発研究第二部 事務サービス系研究室研究員）

西 見 安 則（開発研究第一部 電気化学系研究室研究員）

本報告書が、今後の職業能力開発におけるシーケンス制御教材について考えるうえでの資料として、各方面で活用していただければ、また様々なご意見、ご批判を賜われれば幸いである。

昭和62年3月

職業訓練研究センター

所長 多賀谷 敏 夫

訓研調査研究資料

第81号

シーケンス制御訓練内容の考察

－ 自動制御のME化に訓練内容をどう対応させるか－

発行 1987年3月

発行者 職業訓練研究センター  
所長 多賀谷 敏夫  
〒229 神奈川県相模原市相原 1960  
電話 0427-61-9911 (代)

印刷 (株) ワーク1  
相模原市中央2-8-9  
電話 0427-58-6091